



障害者、認知症高齢者、地域のボランティアなど様々な人の「働きたい」という「ひとりの想い」を大切に農福連携の活動を実践しており、農業や森づくりを通じて、障害者や高齢者、学生や子どもたちが繋がり、地域を元気にする輪が拡大。

基本情報

- 所在地：北海道石狩郡当別町
- 団体名：社会福祉法人ゆうゆう
- 選定表彰：－
- 主力商品：米、かぼちゃなど野菜4品目（野布瀬農園）、小鉢御膳（ぺこぺこのはたけ）、お弁当（東京大学U-gohan）



収穫した米・野菜



季節の小鉢御膳

- 取得認証等：－

取組の概要

- 重度障害、認知症、ひきこもり状態にある者等の就労ニーズや高齢化により離農する農家が多い等の地域課題に対応するため、令和元年に自社農園を整備。
- 利用者のほか地域住民や学生ボランティアとの協働で農業・林業に取り組んでおり、地域から活動が見えることで相互理解が深まっている。また、農園や森で開催するイベントは、地域住民との交流の場となっている。
- コミュニティ農園が隣接したレストランを開設し、地域の就労場所を創出するとともに、自社生産の米や野菜を使用した食事を提供。
- 東京大学の学食と連携し、自社の米・野菜を使用した弁当を販売。北海道の魅力と商品の背景にある農福連携の取組を学生に伝えている。



農作業の様子



子供たちとの交流



野布瀬の森イベント

体制図

<地域共生>

社会福祉法人 ゆうゆう

高齢者

認知症

学生

子供たち

生活介護事業所 によきによき

ソーシャルケアファーム 野布瀬農園

ソーシャルケアウッズ 野布瀬の森

就労継続支援B型事業所
ぺこぺこのはたけ（レストラン）東京大学工学部 学食
北海道の米と汁 U-gohan東大正門店

取組の成果

- 農業イベントや林業研修などで年間約900名と交流。保育園、高校、大学などの教育機関から実習を受け入れ、連携を深めている。
- レストランでは、年間約900万円、学食では約1,300万円売り上げている（令和4年度）。
- 高等養護学校を中退してひきこもりの状態となっていた男性が、就労支援サービスである農業を通じて人との繋がりを経験し、農家へ一般就労を実現。

所在地 ▶ 北海道石狩郡当別町六軒町70番地18

連絡先 ▶ TEL:0133-22-2896 E-mail:info@yu-yu.or.jp

ウェブサイト ▶ <https://yu-yu.or.jp>

【取組のプロセス】

平成17年

ボランティアセンターを卒業した障害児の就労先がない

きっかけ

社会福祉法人設立以前から運営していた障害児のレスパイトサービスなどを行うボランティアセンターを卒業した障害児の就労先がないという課題を聞き、農福連携の取組を開始

平成23年

美味しいお米が生産できる地域だが、高齢化など離農が多い

共生型コミュニティ農園「ぺこぺこのはたけ」開設

- 地域とのワークショップにおいて、「成長した障害児が働く場所がほしい」、「当別の主要産業は農業」、「外食施設がほしい」などの声を受け、コミュニティ農園（10a）と隣接するレストランを開設し就労場所を創出。



地域住民との交流

令和元年

地域の森林が手付かずのため荒廃進む

ソーシャルケアファーム「野布瀬農園」開設

- 重度障害、認知症、ひきこもり状態にある者等の就労ニーズに対して自社農園を検討し、営農が継続困難な農家から農地（5ha）を取得。令和元年にソーシャルケアファーム野布瀬農園を開始。



お米の収穫作業

令和3年

ソーシャルケアウッズ「野布瀬の森」開設

- 以前から冬期の仕事が少ないのが課題であり、冬期に薪づくりが行える林業を検討。
- 野布瀬農園に隣接する森（8.7ha）を購入し自伐型林業を開始。地域ボランティアの協力を得ながら森を活用したイベントを行うなど、交流の場としても活用。



森のイベント風景

今後の展望

「支え手」「受け手」を超えた地域共生社会の実現へ

- 障害者や高齢者だけの制度やサービスに限定されない、だれもが頼り合って働ける場づくりを波及させ、地域共生を進める。
- 長期的な視点で、農地や森を整備・管理し続ける体制づくりの実現に取り組む。



農作業の風景



世田谷に誰でも参加できるインクルーシブな「夢育て農園」を開園し、知的障害者・発達障害者の教育法を日々進化させつつ、質の高い「農福×教育」事業を展開。

基本情報

- 所在地：東京都世田谷区
- 団体名：夢育て農園（株式会社夢育てとNPO法人ユメソダテが共同で運営）
- 選定表彰：2023グッドデザイン賞（ニコニココイン）
- 主力商品：有機野菜、藍、みかん等

- 取得認証等：－



農園の様子

取組の概要

- 知的障害者・発達障害者を対象に、系統的認知能力強化と運動機能強化、主体性を育てる夢語りの時間と、農作業を組み合わせた「人を育てる畑青年コース」を週1回2時間半開講。播種・定植、施肥、収穫・調製、除草、鋤振り等の作業を通じて認知的発達・成長を図る。令和6年1月から小中高校生向け少年少女コースも開講。
- 多品目野菜の有機栽培を中心に、誰でも参加できるオープンデイを毎月開催しており、令和4年のみかん狩りには5200人が参加。ノウフクフェスタや地元での販売も実施しており、千葉大と共同で製造したみかんソースなどを販売。



修了式の集合写真



ニコニコみかんソース



授業風景



多様な人が参加

体制図

夢育て農園設立委員会
(株式会社夢育てとNPO法人ユメソダテの合議体)

幹事会

農福コミュニティチーム

人を育てる畑チーム

栽培管理チーム

取組の成果

- 唾液から受講前後のストレス変化を計測し、高ストレス・心身不活発な状態で参加した受講者が、コース受講後には劇的にストレスを下げ、かつ心身を活性化させたことを明らかにした。
- 受講生に心理テストを実施し、明確な認知的成長を定量的に計測。受講生はできなかった作業ができるようになり、福祉活動へ積極的に参加するようになる者や、就労を実現する者も出てきている。令和5年11月には、高齢・障害・求職者雇用支援機構の発表会にて成果を発表。

所在地▶東京都世田谷区弦巻3-3-8

連絡先▶TEL: 080-5088-6271 E-mail: maekawa@yume-sodate.com

ウェブサイト▶<https://yume-sodate.com/>

【取組のプロセス】

平成30年

夢や希望を育てる
傾聴伴走活動本格
化

神奈川TV&TV埼
玉で紹介

第5回夢への作戦
会議でお金が使え
ない原因を検討

クラウドファン
ディングの活用

高障機構職リハ：
夢育て&認知フ
ォルム論文発表

ニコニコイン完成

夢育て農園開園&
人を育てる畑開講

ストレス変化計測

認知発達計測

あおばエールとコ
ラボでお買物講座

Good Design
Award 2023受賞

高障機構職リハ：
ストレス&認知発
達論文2本発表

少年少女コース開
講

X day
認知の学校設立

今後の
展望

きっかけ

支援学校卒業後の学びの場がない「18歳の壁」に問題を感じ、「社会が夢を育て、夢が人を育て、人が社会を照らす循環づくり」を目指して設立

NPO法人設立

- NPO法人ユメソダテ設立。障害や生きづらさを抱える人など、すべての人の夢の語り場を作るイベント「夢への作戦会議」を開始し傾聴・伴走活動開始。

ニコニコイン開発

- 障害者がお金を自由に使い、買い物が楽しくなるようにニコニコインを開発。
- GOOD DESIGN AWARD グッドデザイン賞受賞。

畑での認知発達促進活動&地域との交流

- 夢育て農園を開園。知的発達障害があっても認知的に成長できることの実証を目指し、人を育てる畑コースを開講。
- 誰でも参加できるオープンデイを毎月開催。毎回参加者が増加し、地域交流会の様相となる。インクルーシブなコミュニティづくりに邁進。

農福×教育事業の更なる発展

- 農福連携による障害者の認知機能向上・自立促進の可能性を追求。障害者への教育法を伝えるワークショップを開催し認知発達促進法を普及。
- 誰もが夢を育み、目指すことのできる「夢を育てる社会」とするため、どんなに障害があっても、いくつになっても成長できる「認知の学校」設立を目指す。



農園の様子



Good Design賞受賞



多様な人が来園



畑での授業風景



障害の有無や年齢を問わず、すべての人たちが集い、人と自然、人と人との触れ合いの中でお互いを認め合い、生きがいを見つける地域のコミュニティを提供。園芸療法により利用者の主体性を引き出す。

基本情報

- 所在地：大阪府高槻市
- 団体名：特定非営利活動法人たかつき
- 選定表彰：－
- 主力商品：－
- 取得認証等：－



「自分の畑」でミニトマトを収穫

取組の概要

- 介護保険施設であるデイサービスセンター晴耕雨読舎を平成19年に開所。農地を借りて認知症高齢者や要介護高齢者の生きがいづくり、健康維持、増進に向けた園芸療法を実施。
- 施設に隣接する農地（7a）に加えて、農作業に取り組む利用者の増加に伴い遊休農地（4.5a）を借り、比較的体が動く利用者とともに畑として活用。
- 現在造園エクステリア企業との連携企画が進行。要介護高齢者がいる老人ホームやデイサービスで農園芸に取り組めるシステムのモデル作りを進めている。



建物に隣接した農地に「自分の畑」が並ぶ



収穫時に笑顔が弾ける



体を動かすことで運動機能向上・維持

体制図

特定非営利活動法人 たかつき

介護保険事業部

子ども事業部

園芸療法事業部

取組の成果

- 認知症で意欲低下が著しく動くことが少ない利用者が自分の畑を持ち、野菜の手入れをすることで、収穫の頃には畑までの往復歩行が習慣化。
- 利用当初に比べて歩く距離が増え、下肢筋力の低下を予防。
- 近隣の遊休農地を活用することで農地の維持に貢献。
- 介護高齢者数は2,400人（平成13年）から、5,580人（令和4年）へと増加。
- 「認知症ケア事例ジャーナル」の特集において、10ページに渡って、認知症介護の現場での園芸療法の取り組み方や有効性について発信。

所在地 ▶ 大阪府高槻市原2235番地

連絡先 ▶ TEL:072-689-9112 E-mail: information@npo-takatsuki.org

ウェブサイト ▶ <https://npo-takatsuki.org>

【取組のプロセス】

平成13年

要支援・要介護高齢者の活躍の場を創出

きっかけ

要支援・要介護高齢者の活躍の場を創出することを目的に施設と隣接する農地7aを借りて園芸療法を開始

介護保険施設であるデイサービスセンター晴耕雨読舎を開所

- 園芸療法に取り組めるように農地を借り、一部を農地転用して建物を建て、農地を活用して園芸療法を実施。
- 農地の整備は利用者の状態に合わせてレイズドベッドの導入、利用者個々の畑区画「自分の畑」の導入などを進め、利用者の主体性を引き出し、能動的に活動参加。



レイズドベッド
座った状態で白菜を管理

平成30年

地域の遊休農地を活用

農地面積は遊休農地と合わせて11.5a

- 当初は施設に隣接する農地のみ（7a）で農作業をしていたが、農作業に取り組む利用者が増加。デイサービスから少し離れた遊休農地（4.5a）を借り、比較的体が動く利用者とともに畑として活用。



仏壇に飾る花を育て
自らが摘んで持ち帰る

令和4年

多世代交流により、誰もが楽しめる地域の場を創出

小学生の自然体験活動日を倍に増やす

- 遊休農地を地域の小学生の自然体験活動に利用。月2回地域の小学生40人が参加し、季節の野菜作りを中心とした農業体験をしている。
- デイサービスにある畑で地域の未就学児親子の自然体験活動を月3回実施し、子どもたちは農業体験をするとともにデイサービスの利用者と自然にふれあうことができている。



90歳がバケツ稲を収穫

今後の
展望

人生の最期の時間を有意義に幸せに過ごせる社会をつくるための輪を広げたい

隣の市のデイサービスで農園芸の取り組みを指導

- 農園芸ができる介護現場を増やすために、当法人のスタッフで共有している「園芸療法心得帳」を土台にマニュアルを作成する。このマニュアルを活用し、全国各地の高齢者施設で農園芸を実践できる仕組みを作る。
- 介護現場での農福連携の取り組みを通して、高齢化による農業の担い手不足と、それによる荒廃農地の増加といった社会課題を解決していきたい。

国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場作りを行うこと等により、罪に問われた者等の社会復帰を支援し、誰もが地域の一員として包摂される社会の実現を目指す。

奈良県
橿原市



基本情報

- 所在地：奈良県橿原市
- 団体名：一般財団法人かがやきホーム
- 選定表彰：奈良県保護観察所 感謝状
作田明賞 優秀賞
- 主力商品：－
- 取得認証等：－

一般財団法人 かがやきホーム
～Splendente Famiglia NARA～

「全ての困っている人を、家族の一員として受け入れ、一人一人が輝ける家」として命名

取組の概要

- 令和2年、奈良県が「奈良県更生支援の推進に関する条例」を制定したことを契機に、県の出捐により、県知事を代表理事とする財団法人として設立。法務省と連携して都道府県が罪に問われた者等の社会復帰を支援する仕組みは全国初。
- 刑務所出所者等を直接雇用し、五条市内の森林組合及び青ネギ生産組合等の協力により、同組合での就労研修（技術指導等）を実施。
- 居住する市内で実施されたクリーンキャンペーンやこども食堂への応援など、社会貢献活動に積極的参加。



五條市青ネギ生産組合(研修先)
で農業の技術指導を受ける

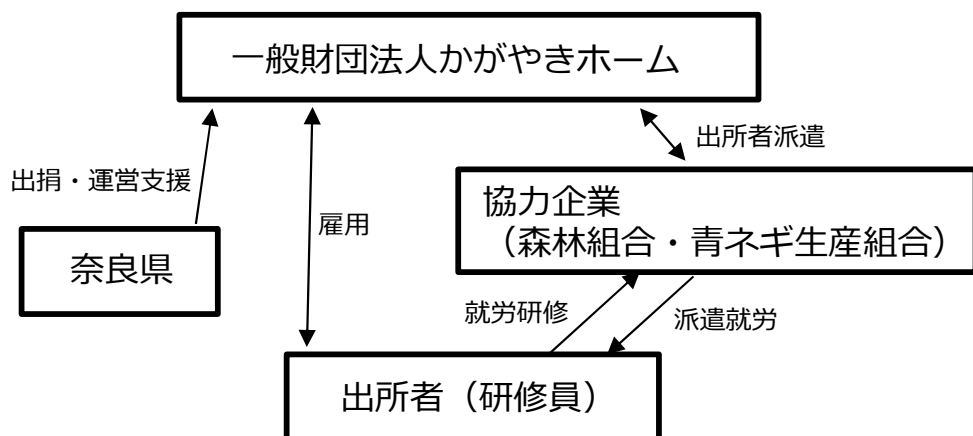


五條市森林組合(研修先)
で林業の技術指導を受ける



五條市市民集会に自主参加(社会貢献作業)

体制図



取組の成果

- 就労を通じて様々な人たちと交流することでコミュニケーションスキルの向上に繋がっている。
- 社会福祉施設において利用者と触れ合いながら作業実習の手助けをすることで共助・協働の意識が高められている。
- 令和2年9月に雇用した研修員1名が五條市森林組合に正式採用。
- 活動が認められたことで、近隣の休耕田を無償で借り入れることができ、ネギの栽培により荒廃農地の解消に貢献。

所在地 ▶ 奈良県橿原市大久保町320番地の11

連絡先 ▶ TEL:0744-33-9661

ウェブサイト ▶ <https://www.nara-kagayaki.com/>

【取組のプロセス】

令和2年

罪に問われた者等を支援するために地域において就労の場や住居を確保することを目的に設立

きっかけ

国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場を作り出すことを目的として取組を開始

罪に問われた者等を支援するために設立

- 令和2年、「奈良県更生支援の推進に関する条例」に基づき、罪に問われた者等の更生支援に関する事業を行う財団として設立。
- 出所者を雇用し、就労の場を提供するのみならず、住居の提供や社会教育の実施により社会復帰を支援する。

令和4年

農業就労研修のため出所者2名の雇用

ネギ生産組合で農業就労研修を開始、荒廃農地の解消

- 令和4年10月から農業就労研修を開始。働きぶりが認められ、近隣の休耕田(29a)を無償で借り入れてネギを栽培。荒廃農地の解消による地域維持に貢献。
- 五條市森林組合において週に4日、木の伐採、草刈り、作業道の整備、植林などに従事して林業の技術指導を受ける。

令和5年

社会貢献作業を通じて福祉施設との交流を深め、同施設との連携を図る

地域との連携・社会への包摂と社会復帰

- 週に一度、社会貢献活動として福祉施設において空き缶の仕分け（リサイクル）や肥料作りを手伝うなどして、福祉施設との関わりを深めている。
- 研修員が社会福祉法人の農業部や研修先の福祉施設に採用される等、地域の農林水産業の担い手に。
- 現状では更生支援を実際に担う団体・機関が一部に限定されているため、派遣できる職種を広げ、充実させ社会に貢献することを目指している。

令和6年

研修員2名のうち、1名は福祉施設の職員として採用予定
他の1名は、農業就労研修を継続

研修員の自立を目指す

- 農業系学校のカリキュラムも踏まえて、農業従事者に必要な技能、資格取得（日本農業技術検定各級、農業簿記各級、農業機械士及び大型特殊免許などの資格取得）を目指し、将来は研修員の自立（起業・農業法人での就農等）に繋げる。

今後の展望



手塩にかけてネギを栽培



カットネギ工場パック詰め



五條市クリーンキャンペーンに参加(奉仕活動)



刈払機講習にて技術習得と資格取得



地域の福祉団体や農福連携を実施する企業と連携して、障害者や高齢者と協働した農作業、カフェ運営、新商品開発を実施。全国で珍しい農業高校における農福連携の取組。

基本情報

- 所在地：愛媛県伊予市
- 団体名：愛媛県立伊予農業高等学校生活科学科食物班
- 選定表彰：
 - ・ 令和2年ディスカバー農山漁村の宝 中国四国選定地区
 - ・ えひめ地域づくりアワード・ユース 2023 最優秀賞
 - ・ 第74回日本学校農業クラブ四国大会 最優秀賞 等
- 主力商品：きくらげ鯛飯、きくらげつくね
- 取得認証等：－

取組の概要

- 地域との連携を目指した授業の一環として、「#伊予農福連携プロジェクト」を生徒が自ら立ち上げ。
- 伊予市内の福祉団体、ほっとネットいよしと連携し、障害者や高齢者に生き生きと仕事をしてもらうための「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」を開催。地域食材使用のスイーツの考案、調理や盛り付けを行った。障害者・高齢者スタッフは接客担当として活躍。
- 地域の施設が所有する畑、プランターを利用し施設利用者ととともに気軽に楽しくをモットーに農福連携を実施。
- 農福連携を進めている企業、株式会社和光ワールド、一般社団法人greensightと連携し、自然農法の米・きくらげ・大豆を栽培し、商品化・メニュー化を目指す活動を実施。



ほっとネットいよしと連携したカフェ



プランターでの野菜の栽培



ノウフクJASきくらげ商品化

体制図

愛媛県立伊予農業高等学校

連携

地域の施設

- ・ 地域の施設
- ・ グループホーム土香里
- ・ ワークハウス睦美
- ・ 就労継続支援B型事業所日光里
- ・ 小規模多機能ホームあんこ
- ・ ほっとネットいよし

連携

企業

- ・ 株式会社和光ワールド、
- ・ 一般社団法人greensight
- ・ 八戸協和水産株式会社

取組の成果

- イベントの際には障害者・高齢者スタッフに、最低賃金を支払っており、「達成感を得た」「また参加したい」と好評。
- 施設利用者と一緒に野菜や花の栽培・収穫を行い、施設の食事に使用。
- ノウフクJASきくらげを利用したランチメニューを4種類考案し、令和5年9、10月の土日で1,000食を提供。また、青森県の水産企業と連携し農福連携商品の企画・製造を協議し、「きくらげ鯛飯」、「きくらげつくね」のレトルト食品の販売が決定。

所在地 ▶ 愛媛県伊予市下吾川1433

連絡先 ▶ TEL:089-982-1225 E-mail:－

ウェブサイト ▶ <https://iyo-ah.esnet.ed.jp/>

【取組のプロセス】

令和4年

きっかけ

農福連携を通して、地域課題である共生社会の実現に尽力したいとの思いから「#伊予農福連携プロジェクト」を立ち上げ

障害者や高齢者との関わり

- 伊予市内の福祉団体「ほっとネットいよし」と連携して「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」を実施し障害者、高齢者スタッフと地域貢献。



「ちいさなしあわせがみつかるカフェ」の様子

地域の施設と農福連携活動（11月）

- 地域の施設が所有する空いている畑とプランターを利用して施設利用者とともに気軽に楽しく農福連携をキーワードに野菜や花を栽培。収穫した野菜は施設の食事に使用。



プランターでの野菜の栽培

企業との連携

- 株式会社和光ワールドのきくらげ栽培作業に参加し、障害者と交流。
- 八戸協和水産株式会社と連携しノウフクJASの認証を受けたきくらげを使用した「きくらげ鯛飯」「きくらげつくね」のレトルト食品を開発。



道後のホテルにぎたつ会館でランチ販売

農福連携活動の発表

- 農業高校の甲子園と呼ばれる日本学校農業クラブ連盟の競技会において、これまでの取組活動を発表し、四国大会で最優秀賞を受賞したことで全国大会に出場。

「#伊予農福連携プロジェクト」の拡大

- 医療・保険分野での農福連携活動。
- 園芸療法やユニバーサル農園の実施。
- ノウフクJASきくらげを使用した商品開発を継続。



株式会社和光ワールド等と企業連携

今後の展望

地域食材使用のスイーツを考案し、カフェでの販売を実施

愛媛で唯一のノウフクJAS取得している（株）和光ワールドのきくらげの普及活動

道後のホテル「にぎたつ会館」と連携しきくらげ使用メニューを4種考案



障害者福祉事業を行う中で、障害者を企業の戦力として定着させたいという理念のもと、慢性的な人手不足に陥っていた水産加工会社を事業承継し、人手不足解消と障害者が戦力として定着する新たな分野を創出。

基本情報

- 所在地：福岡県福岡市
- 団体名：一般社団法人 社会福祉支援協会
- 選定表彰：令和2年 福岡市環境行動奨励賞（福岡市）
- 主力商品：冷凍魚切り身（調理前）、冷凍魚フライ（調理前）、冷凍焼き魚（調理済）
- 取得認証等：有機JAS、ISO22000



冷凍魚切り身（調理前） 冷凍魚フライ（調理前） 冷凍焼き魚（調理済）

取組の概要

- 障害者の作業を箱折り等の軽作業から徐々に切身の加工など専門業務にスキルアップしていく仕組みを作るとともに、評価シートの導入でモチベーションアップを図り、7名の直接雇用（一般就労）を実現。
- 障害者の声に応え、作業場隣接エリアに休憩場を設けるなど就業環境の改善を図るとともに、分かり易い指示・手順（図や写真の掲示）を作成・活用し、職場に浸透しており、顧客からのクレームが年間比12%減少。



一般就労者への
技術継承



指示・手順掲示
（ローラー掛け、異物確認）



商品パック詰め作業の様子



福祉事業所・企業からの視察
（工場）の様子

体制図



- ・日々の施設外就労（利用者30～35名）
- ・施設外からの一般就労
- ・障害特性についての研修会

- ・A型事業所売上に繋がる商品卸
- ・施設外就労の受入
- ・一般就労（雇用）の受入



取組の成果

- グループ内障害者施設との連携により水産加工会社の人手不足が解消
- 障害の特性に合わせた作業分担を行うことで、離職が激減。
- 正確な切り身加工等の専門的業務において生産量／日が30%アップし、品質も向上。

	令和3年	令和5年 （見込み）
・施設外就労年間延人数（人）	1,966	2,060
・一般就労者数（水産加工）（人）	1	7
・施設外就労売上（水産加工）（円）	9,106,757	24,891,483

所在地 ▶ 福岡県福岡市博多区博多駅前2-17-25博多クリエイティブビル5F

連絡先 ▶ TEL:0120-888-545 E-mail:kanri@be-smile.net

ウェブサイト ▶ <https://b-continue.co.jp>

【取組のプロセス】

障害者の就労定着
の実現を目指す

平成22年

きっかけ

障害者を企業の戦力として社会に定着させたいという強い思い
を実現するため、慢性的な人手不足に悩んでいた地域の水産加工
会社の事業承継へと至る

平成23年

一般企業へ施設外
就労受入れ先の開
拓

一般社団法人社会福祉支援協会の設立

- 障害者＝働けないというイメージを変え、障害者を企業の戦力ととらえ、「待つ福祉から攻めの福祉へ」の理念のもと、より豊かな人間社会の実現と、人はみな平等の社会を目指すべく福祉事業を開始。

平成24年

M&A事業展開
令和2年
那珂キッチン
令和3年
福岡丸福水産

就労移行支援/就労継続支援A型/共同生活援助/通信制高校等を順次開設

- 学び・生活・就労を包括した支援を通した利用者が安心できる環境づくり。
- パートナー企業19社で施設外就労を積極的に実施。

令和3年

M&A企業（那珂川
キッチン・福岡丸
福水産）における
施設外就労及び直
接雇用

グループ内水産加工会社・国産無添加食品製造会社での施設外就労の開始

- 職人が切った後の加工工程を利用者が担い、大量製造が可能となった。
- 業務に携わって3ヶ月程で福岡丸福水産へ就職するなど、障害者が大きな戦力となっている。
- 那珂川キッチンにおける施設外就労や一般就労は生産性の向上および売上増に繋がっている。

現在迄の
障害者雇用人数
・那珂川キッチン
6名
・福岡丸福水産
7名 合計13名

今後の
展望

待つ福祉から、攻めの福祉へ

～ 障害をもっている方一人ひとりの自己実現を応援します。～

- 障害者を含めたグループ全体で技術継承及び人材育成に取組み、水産加工会社や食品製造会社において障害者雇用50%を目指す。
- メディアによる取材・撮影は積極的に受け、職場体験や工場見学の機会を増やし、障害者が戦力として働き、かつ企業の業績を伸ばしていることを発信し続ける。
- 国際規格ISO22000の認証を活かしたものづくり、冷凍自販機の増加等で販路を拡大し、売上増加→生産増加→障害者雇用増加の流れを確かなものにする。この流れをプレスリリースなど通じ多方面に発信していきたい。



就労移行支援、就労継続支援
A型事業所



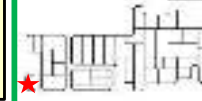
(2020年M&A那珂川キッチン)
国産無添加食品製造会社



(2021年M&A福岡丸福水産)
水産加工会社



(水産加工会社工場内作業)



障害者を含むすべての人がありのままで笑顔になれるコミュニティづくりを目指し、無農薬、無肥料、無化学肥料の自然栽培で野菜や果樹を生産するほか、国内では珍しいバナラビーンズの生産も手掛ける。

基本情報

- 所在地：沖縄県中頭郡北中城村
- 団体名：合同会社ソルファコミュニティ
- 選定表彰：－
- 主力商品等：ローゼル、人参、玉ねぎ、バナラ、オクラ、バナナ
- 取得認証等：－



野菜の選別作業



農場での作業

取組の概要

- 就労継続支援A型事業所として、障害種別を問わず、スタッフ7名、利用者23名で北中城村及び中城村に農地8か所約3haを借り入れ、年間を通して季節の野菜・果樹など多彩な作物を栽培するとともに、荒廃農地を開墾してバナラや、コーヒー栽培にも着手しており、地域の中心経営体として位置づけられている。
- 障害種別で業務を分けず、個性を重視した仕事の割り振りで、楽しく働き仕事を好きになってもらうことにより、就労意欲の向上を図り、継続的な就労や、一般就労へのステップアップに繋がっている。
- 多品目の通年栽培を行い、年間を通じて安定雇用場の提供。雇用契約により最低賃金を保障し、経済的な自立をサポート。
- 平成30年から「沖縄農福マルシェ」を主催し県内の農福連携の広がり貢献。



農福マルシェ



バナラ栽培



バナラの花

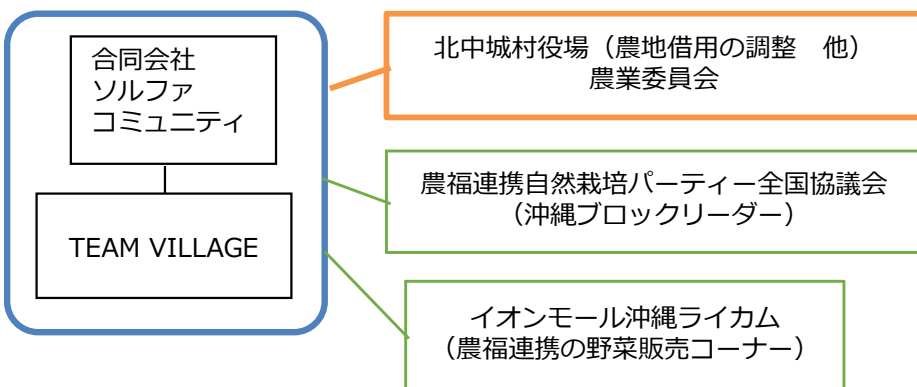


専門学校生の農業体験実習



農福連携野菜コーナー

体制図



取組の成果

○イオンモール沖縄ライカムやうるマルシェ、ハッピーモア市場などの直売所へ農福連携野菜として委託販売。県内スーパーなどへ無農薬野菜の販売先を開拓し、売上高は取組当初から10.8倍。

○年間を通じて作業を行い、年間支払賃金は取組当初から2.4倍。

	取組当初	令和4年	上昇率
売上高	1,575千円	17,011千円	10.8倍
年間支払賃金	6,515千円	16,022千円	2.4倍

所在地 ▶ 沖縄県中頭郡北中城村熱田277

連絡先 ▶ TEL:098-989-8880 E-mail:solfa.community@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://solfa.biz/>

【取組のプロセス】

福祉に参入した農業生産法人に勤めた際、農業と福祉の相性がいいことに気づく

平成24年

きっかけ

介護職の経験から農業と福祉の親和性を感じ、人や環境にやさしい農業を通じたコミュニティづくりを目指す

合同会社ソルファコミュニティ設立

- 無農薬・無肥料の自然栽培による野菜・果樹の生産を開始すると同時に農福連携の取組も開始する。
- 平成25年3月に就労継続支援A型事業所「TEAM VILLAGE」を設立し、福祉事業に着手。



ソルファコミュニティのメンバー

厚生労働省での農福マルシェをきっかけに沖縄でも実施しようと考えた

平成30年

「沖縄農福マルシェ」を主催

- 平成30年から農福連携に取り組む福祉事業所や農業者と連携し「沖縄農福マルシェ」主催し、その後も共催の沖縄農福ラボの代表として毎年開催。県内の農福連携の広がりに貢献（現在は、沖縄県に引継ぎ県主催で実施している。）。



ラッピングした送迎車

沖縄県障害者社会活動推進事業を活用して「沖縄農福マルシェ」主催

県外の洋菓子店から国産バニラビーンズの生産を打診され研究を開始

令和元年

さらなる障害者雇用の拡大、収益向上のためバニラビーンズの栽培に着手

- 令和元年度から5年間で内閣府沖縄振興特定事業推進費補助金を活用して「おきなわ産バニラビーンズ生産体制整備事業」を実施し生産体制の整備を図る。
- 令和4年には、バニラの主産地であるマダガスカルで農場及びキュアリング（発酵）施設の視察を実施。



結実したバニラの莢

内閣府沖縄振興特定事業推進費補助金を活用してバニラの栽培施設整備

10年後までに年間4tのバニラビーンズの生産の実現を目指す

今後の展望

沖縄産バニラビーンズの栽培から加工まで行い、増産により国内産で安価で安心、安定的な供給を目指す

- 独自技術で発酵、乾燥させるキュアリング加工場を整備し、生産拡大による荒廃農地の解消、近隣農家へ苗の配布を行い県内全域での生産体制を構築する。
- 観光農園化を目指すと共に、農福連携で日本一の産地を目指す。



マダガスカル視察